

## 第1回グリーンバレー神室検討委員会

日時：令和3年10月22日(金) 午後7時～

場所：金山町役場大会議室 進行：関係長

欠席：渡部雅人（もがみ北部商工会青年部）

- 1 開会
  - 2 委嘱状交付
  - 3 町長挨拶
  - 4 委員長選出 町長が委員長を指名→斉藤准教授
  - 5 検討委員会の進め方
  - 6 協議（座長：斉藤委員長）委員長が副委員長を指名→矢口政一議長
- (1) グリーンバレー神室の状況について

- 資料1 検討の進め方（斉藤委員長）
- 資料2 広報4月、10月号（中村補佐）
- 資料3 町中期財政計画（庄司総合政策課長）
- 資料4 令和元年～2年度に検討した内容の要点（中村補佐）
- 資料5 GV神室の利用者と収入金額（中村補佐）
- 資料6 GV神室の収支状況（中村補佐）
- 資料7 GV神室振興公社管理施設の利用者数と雇用状況（中村補佐）
- 資料8 GV神室振興公社管理施設の令和2年度収支状況（中村補佐）
- 資料9 GV神室振興公社の令和2年度決算状況（西塚支配人）
- 資料10 大清水源泉 温泉分析書（中村補佐）

(2) 意見交換

斉藤委員長：町民一人あたりにかかる起債額と歳入歳出額は。

庄司総合政策課長：町民一人あたりの負債残高が100万、歳入歳出73万円（予算上）

早期健全化団体については、健全化比率などを指標として、各基準を設けている。

総務省から指定されると、事業支出等へ細やかな指導が入り、起債の発行に強い制限がかかる。夕張市では、住民サービスが大幅に減少した。

矢作委員：ターゲットバードゴルフはコロナで大会減少、大会等で集まるのが難しい。

町内での活動が中心、車での移動は高齢化で難しくなっていると考えている。

声がけをして参加者を確保していきたい。

須賀委員：20日にシェーネスハイムを最上北村山の代表者の集まりで利用した。

今後のグラウンドゴルフの参加者の増加は難しいだろうと思う。

井上委員：社会福祉法人陽だまりでホースセラピーを実施している。ここ4年間は子供たちのみだったが今年から大人の障害者の就労事業も開始した。10月31日にめぐたまマルシェを神室ファームとグリーンバレー神室を利用して実施予定。いま、全

天候型ホースセラピーアリーナ（福祉と建築がテーマ、日本財団の補助金活用）をグリーンバレー神室の旧ゲートボール場に建設できないか構想している。冬場でも、どんな天候でも一定の環境で安定してサービスを提供できる場が必要と感じている。また、一般の人も利用できる工夫として、感覚統合ゾーンは子どもの遊び場とするなど、ひとつの建物で障害者と一般の人が一緒に利用できる施設をつくりたい。前森高原にはアスレチック施設がある。神室の芝生に少しのアスレチック施設があれば休日の親子利用が増えるはず。さらにホースセラピーアリーナがあれば、さらに利用が増えるのではないか。グリーンバレー神室の付近では更なる活用をしていきたい。

矢口委員：キャンプ場には人が来ている。ちょっとした遊具などを作れば人は来るのではないか。冬はスキーに併せてアウトドア等で活用していければ。

柿崎委員：息子がスキーをやっていて夏場はトレーニング、冬場にスキーで利用している。イベントごとがあった場合はホテルを利用するが、そういう時は自分たちしか利用していない状況である。県外から客を引っ張ってくる工夫や大人も楽しめる施設が欲しい。

川崎委員：最初の仕事がグリーンバレー神室で3年勤務した。スキー場ができてすごく賑わっていた。リフトの収入だけで3000万あった時代。人口減少が進んでいる中で、いろんな意見をもらいながら考えていきたい。今年度中に検討委員会を3、4回実施し、検討会の内容を町に提案したい。その後、町としての案を作りパブリックコメントを募集する。9月までにGVの方針を決定していきたい。

庄司委員：昨年度から事業見直しを実施しており、そこに新型コロナが加わった。今後新型コロナがどのように影響していくか町財政を含め検討していく。廃校利活用検討委員会のなかでもあったが、各施設の今後の利用者の見通しを的確に把握する必要がある。見通しを間違えると財政負担が増えていく。温泉施設をどうするかを早急に判断する必要がある。ここでも利用者の見通しについて慎重に判断する必要がある。

宮林委員：委員会の進め方が重要。先生から提案頂いた3つの基準を前提に、行政側としては、住民の意見を踏まえつつ、高規格道路建設に伴う、交流人口の増加に向けた取り組みも考えながら進める必要がある。借金の返還が8000万増加するのは温泉の建替えを含んでいる。公社の他部門の赤字部分も検討材料にする必要がある。また、高規格道路建設による交流人口の増加を見込む場合、滞在施設がなくなることによる交流人口の大幅な減少とホテルの収益が赤字になることも注視しなければならない。スキー場の利用者数とスキー場の赤字分。近年の収益は料金改定でのアップだが搬送人員は減少している。診療所の財政負担がある。診療所とグリーンバレー神室を含め全体での判断が必要である。

西塚委員：今年度の宿泊客が3000人にやっとなった状況。団体客がコロナで減っている。

宿泊人数は令和2年からかなり減少。10月からキャンペーンで少し盛り返して来ているが少ないのが現状。また温泉の老朽化や故障に加え、ホテルの施設整備（外壁等）も必要になってきている。但し、今後のアフターコロナのインバウンド需要等に向けて、テレビのCM、チラシ、YoutubeなどでPRしている。

栗田委員：とても難しいテーマ。町の小学校のスキーやふれあいスポーツのアルペンの練習を通してスキー活動に取り組んでいる。活動場所がなくなる危機感。

ホテル等の状況を見ると軒並みかなり厳しい状況。経営改善に向けての取組みはしてこなかったのか。

柴田委員：グリーンバレー神室全体を見て町唯一の観光施設。コロナの影響により大きなマイナスとなっている。今後どうしていくかが課題である。

事業見直しを進めている状況で、財政的にはすべてやらなければいけないわけだが、やれるものは続けていきたい。事業を譲渡するとしても新しい事業をやる人に引き継げるのか不安である。早期健全化が必要である。色々な説明を聞き危機感を感じている。温泉施設に6億円はかけられないなとも思うが方法はないのか。資料や住民の意見を聞きながら検討。

寒河江委員：委員長より進め方を示していただきわかりやすい。議会でもグリーンバレー神室で一般質問などあったがなかなか進んでいない。今年度に方向性を出さなければならぬ。

ホットハウスの件はこの1、2年での判断が必要。また、ホテルの老朽化も進んでいるためそちらの部分も考えなければならない。町民と町外の方の交流の場としての役割を担っている。何もしなければ財政上いいわけだが、何ができるかを検討していく必要がある。

中村委員：スキー場は農業者の冬季間の仕事として勤務する人が多くいた。最近は少なくなっている感じがする。後ほど応募状況について教えて欲しい。数値に表すのがなかなか難しいものがある。真室川町の新庁舎は18億円で建設できたと聞いている。建坪を考えると温泉施設に6億円は高すぎる。プロポーザル等を活用し予算の上限を設定して、その範囲で建築するなど検討する余地があるのではないか。

早坂委員：スキー場が潰れそうになると思っていなかった。この辺にはスキー場はなく、できた当時は流行っていて、期待していた。スキーを体験してきた子どもたちが、大人になってなぜスキーやボードをしなくなってしまうのか不思議である。親がスキーを乗らなければその子どもたちも乗らない。

難しい判断となる。一番は財政の見通し。財政の見通しがなければ作れない。事業見直しで2億円の捻出を目標にしている。事業見直しをしている中で、ホットハウスの6億円は非常に難しい。積立金や交付税の減少でくる時に、財政の流れをもっと簡単にわかるような資料を作成してもらいたい。

事業見直しの流れ、積み立てと借金のバランスなどを判断材料にしたい。

矢口委員：グリーンバレー神室に関して。温泉は財政に見合った金額で改築するべきだ。

金山の財政的には存続してほしいがなかなか難しい。全面撤退ではなく、どうしたら存続できるかを検討していきたい。金山町には高規格道路のインターが4つできる。中心部の整備だけではなく周辺部の整備が必要である。セラピーファームや遊学の森、様々な要素を踏まえて研究していく必要がある。時代にあった場所づくり、存続できる方向性を探りたい。

齊藤委員長まとめ

- ・財政状況を把握できた。早期健全化の必要性の共有ができた。いかに身の丈にあった方向性を見出せるか。
- ・ホットハウスの建て替えは、身の丈にあった方向性での検討が望まれる。ホテルなどの施設の老朽化への対応も必要になっていく。
- ・スキー場は子どもの遊び場として機能がある。
- ・スキー人口の減少を前向きに捉え、子どもの遊び場を作る。
- ・グリーンバレーは雇用の場でもあり、活躍の場でもある。

庄司課長

グリーンバレー神室振興公社の資産について。設立時は1400株 7000万円であり、1株5万円で町3570万円、JR3430万円、51:49の割合で株を保有している。

現在は3720万と当初の約半分となった。繰越欠損金が要因で株の時価が下がっている。令和2年度末で現金6782万円を保有しているが、運転資金として令和2年度に3000万円を借り入れた分も含まれている。今年度も万が一3000万円の赤字になると町とJR双方で協議して株の増資の必要性を検討しなければならない。併せて借り入れた3000万円を返還していく経営改善が必要となる。

川崎課長 グリーンバレーの経営改善に関してはグリーンバレー神室運営委員会を開催して協議をしながら進めてきた。町サイドで案を模索して集客へ向けての取組みを実施してきた。今後を見据えた上でコンサルからの提案をいただいた。

スキー場従業員は、業務委託していた圧雪業務を実施のため1名増で募集したところ、定員通りの応募があった。

井上委員：26ページと29ページの指定管理施設の収支と公社の決算の関連性、数値の整合性について教えてもらいたい。

中村：公社としてはマルコの蔵と遊学の森の指定管理を含んでいるため、町の指定管理施設のみと数値が異なる。

(3) 次回委員会開催に向けて

12月中旬までにもう一度開催したいと考えている。事前に資料を配布したい。  
年明けに1、2回開催して方向性を決定していきたい。

次回の議論の内容は、町の財政状況を踏まえ議論することとしたい。  
今後の選択肢の例として財政状況の資料を作成する。事業見直し全体で2億円を調整する必要があるとのことですので、ホットハウスを存続する場合は、教育や除雪などで調整になるということを踏まえ議論をお願いしたい。